



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年4月1日

4 月 第219号

奈良・人と自然の会



＜コロナに負けるな！と咲き誇る川井桜＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	ならやま投句箱	7
里山の今	2・3	Gallaryならやま	8
私のふるさと	4	ならやまプロジェクト	9
字遊字感	5	Monthlyならやま・行事案内	10
病虫害講座	6	幹事会報告・編集後記	11



球児たちへの想い

会長 鈴木 末一

新型コロナウイルス感染症は、発症から約3か月が経過しようとしている。感染の猛威は世界中の国々に広がり、SARS やノロウイルスなどの比ではない。終息に向かいつつある、と発表していた WHO(世界保健機関) が、「(感染症の世界的な大流行)パンデミックとみなすことができる」と見解を転換するに至ったのに驚く。人類は、新型ウイルスの長期化を視野に入れ、対策強化に取り組まねばならないとの重大宣言だと感じたからだ。

東京五輪の年として、夢と希望に満ちた新年を迎えたはずであった。今やそのような気持ちの余裕などさらさらないのである。学校の一斉休校、それに伴い働く母親の就業形態の激変と減収、時差通勤、在宅勤務、外国人観光客の激減、観光産業などの甚大な減益、集団催事などの自粛等々、数え上げれば切りがないほど、日常のあらゆる社会活動がアブノーマルな状況に陥っている。

そのような社会情勢にあって、選抜高校野球は主宰関係者の熟慮の末、選手たちの健康面などを考慮して中止することになった。

ここで、高校野球に多少なりにも縁があるので、球児たちへの思いの一旦を綴ってみたい。

元巨人選手、松井秀喜が高校2年生の秋、和歌山県湯浅町の国民宿舎「湯浅城」で寝食を共にしたことがある。世界に名だたるビッグプレイヤーになるとは想像もしなかった。礼儀正しく、実直な高校生そのものだったと記憶している。次の夏の大会で、5連続敬遠四球を彼は体験する。それを甲子園のネット裏で目の当たりにした。試合後はもちろん、翌日からは陰鬱な空気が球場の内外に漂い、四六時中緊張の連続であり、心休まることはなかった。この敬遠策

について彼は一切口にするのではなく、さわやかに球場をあとにした。

西部ライオンズの松坂大輔とは、オールジャパンの一員として、三国親善大会に参加していたアメリカ、韓国チームと一緒に奈良見物に来た時のこと、東大寺南大門でツーショット写真を撮ったことがある。やはり、高校2年生、夏の大会の後のことであつた。

いずれにしても、選ばれた選手たちであるからだと言うわけではないが、純真な高校生であつた。全国のすべての球児たちがそうだったと信じている。地方大会を勝ち抜き甲子園へ駒を進めてきた選手たちであるから、全国の球児たちの範とならなければとの自覚が、知らず知らずのうちに備わっていたことは確かであろう。

ところで、ソフトボール少年だった私が、31歳の時、ひよんな事から野球部長になった。そして顧問歴12年目、開校6年目のI高校の時、あと1勝まで駒を進めたが、甲子園の夢舞台に届かなかった。その経験から、閉会式などでの挨拶では、準優勝校への励ましの言葉に重きをおくようになった。球児たちと汗と泥にまみれた、練習や遠征試合の時のことが走馬灯のように思い出される。

選抜大会の出場が決まってから、甲子園でプレーしている姿をイメージしながら、開幕の日を待ち焦がれていた球児たちにとっては、中止がどんなに辛かったか、察するに余りある。そんな中、各校の選手たちが、「夏に向けて頑張ります」と、力強いメッセージを発信している。

私の独り言として聞き流してもらいたい。

初出場や46年ぶりなど、夢の甲子園球場の土を踏みしめられなかった球児たちに、出場の証となる名案がないものかなと考えてみた。夏の選手権大会が無事開催できたなら、開会式に選抜校の主将だけでも整列させてあげられないか……。思いは巡る。

それにつけても、WHOの長期化対策宣言は、胸に深く重くのしかかってくる。

里山グループ

◆静かな時間

戸田 博子



エコファームグループ

◆思いがけない骨折

平田 和子

谷山浩子の「テングサの歌」を知っている？
里山とは無関係な切り口で書き始めたが、この歌は紀勢本線のとある駅にいる「テングサ」がつぶやいている。

海も空も植物も変わりなく過ごしているが、人間が誰一人居ないのだ。今の状況を見ているうちに、この歌を思い出した。

必要な仕事をされている人たちを除いて、公園も山も街も、そして私たちのベースキャンプである平城山も人の姿が消えているとは言わないまでも、人は見られなくなっている。

その中で、鳥はさえずり、着々と木の芽や花たちは伸びている。一生懸命に自然（里山）を守っているつもりだったが、私たちの行動は必要だったのだろうか？人は自然と共存しているためと考えているが、他の生物は、人間は取り立てていないのかも？

春なのに、悲観的な文章を書いてしまっておめんなさい。

知らない方のため「テングサの歌」の歌詞を追記しておきます。

<歌詞>

♪紀勢本線 各駅停車 南部の次の岩代駅の
ひと気のないホームの古いベンチの上に
あたしはいるの
あたしテングサ 海からとれた紫色よ
もじゃもじゃ髪よ
誰か忘れた 誰か捨てたの
思い出せない 何も知らない
ばかばかお陽さまよ いい天気
誰もいないのよ なぜかしら
そりゃあ あたしにとっては
どうでもいいことだけど
人間のいない地球って気持ちのいいものね♪
(2番へと続きますが、参考まで)

私の家では、サチという名前の犬を飼っていました。しば犬の雌17才で庭に離し飼いです。
昨年5月30日(木)のことです。

5月中旬から壁を塗り替えるために家の周りに足場が組んであるので、毎朝サチを庭から玄関へ連れて行くのですが、その日は業者の顔を見た途端、逃げ出してしまいました。私は逃げた方向にある側溝の草むらを探していた時、草むらの穴に足を取られて、深さ1mくらいの側溝に落ちてしまいました。自力で這い上がって「痛い」「痛い」と言いながら自宅まで戻りました。今考えるとよく帰れたものです。

それからが大変です。近くの嫁が来てくれて、救急車を呼ぶ時、慌てて「110番」に電話してしまい「警察ですから119番に」と言われたとか、びっくりさせてごめんなさい。

左側の手首と股関節の骨折でした。手首はすぐに金具で止める手術をしましたが、股関節は自然治癒という事でベッドの上だけの生活です。最初は起き上がれる角度は30度で食事とトイレが大変でした。いろんな人に話は聞いていましたが、まさか自分になるとは、情けなかったです。ベッドの上と車いすの生活が1ヵ月近くかかり、後はリハビリ病棟に移って1日2回のリハビリを頑張りました。

突然の入院で主人に「あれ持って来て」「これ買って来て」と、わがまま言ったけど、嫌な顔せず病院の食事がかわいそうだと言って、差し入れを作って持って来てくれたりしました。感謝、感謝の毎日でした。あれからサチは戻って来ない。何処へ行ったのか、かわいそうなことをしました。

私は昨年の12月から里山に来れるようになりました。半年のブランクも無かったように皆さまが暖かく迎えて下さって、ありがとうございました。やはりとっても楽しいです。

景観グループ

◆草刈り隊

森田 展正



果樹グループ

◆「ならやま梅林」に育んだ夢

梅守の翁 古川 祐司

景観グループ内では、草刈り作業班のことをいつしか草刈隊と呼び合っている。今年は記録的な暖冬で、芽吹きの季節が早く訪れている。暑い中で、草木の成長と草刈作業の進捗度との戦いがやってくる。

そこで合理的で効率的な草刈り方法はないものかとインターネットで検索してみた。

その結果、草の成長サイクルに合わせた時期で行う事とあった。始めは、6～7月：草が大きく成長する前に刈り取る。成長をし過ぎるのを止める。次に、9～10月：気温が下がり草の成長の勢いが落ちてくる頃。成長をし難くする。そして、11～12月：冬になって草が枯れてくる頃。枯草を刈って景観を保つ。このような理由から、年3回行うのが理想とされている。

用具は、草刈りの用途や場所に適した刈払機や刈刃を選択し、安全のための保護具を着用して、安全で快適に作業を行なうことに心掛けている。

蛇足ではあるが、作業中は地表面の状況が草で覆われているため障害物や凹凸の状況が把握し難い。そのため多くのトラブルが発生し易い状況にある。作業中は15m以内に人は立入らないことをお願いしたい。

最近、草刈作業の負荷軽減に自走式草刈機、廃竹材の減容化に樹木粉碎機（ウッドチップパー）が購入され活躍している。自走式草刈機は、なだらかな草地なら女性でも運転が容易であることから女性隊員の参加も期待されている。

一方、樹木粉碎機から出る粉碎粉（チップ）は、土壌改良や防草用材として用途があり、チップを活用し、草刈り面積の削減が出来ればと考えている。



令和の春3月、新型コロナウイルス騒ぎをよそに「ならやま梅林」は満開である。今年は、特に花芽が充実したようだ。一昨年、剪定を徹底した効果だろう。道を通る人が足を止めて写真を撮ったりしている風景を見るのは楽しい。この梅林、景観形成事業として始めた最初の果樹園である。平成20年に着手計画、16本の南高梅の苗木を特注し、1年後の11月24日に植付けが完了した。素人集団でよく出来たものだと思ふ一同に、先輩が冷やかす。「桃栗3年柿8年梅は酸い酸い13年というぜ」。これに大石門三さん（元会員）「接ぎ木苗だから3年目には実がなる」。さらに一言、「10アールに20本植えて最大で2.5トン取れるというから、16本で2トンも夢じゃない」と。この大風呂敷に一同大笑い。以来、「ウメ2トン」が我々の夢を語る合言葉となった。あれから10年、梅の木は大きく育ったが「ウメ2トン」の夢はまだ先のようだ。あの時笑った先輩や大石さんはもういない。

今年から「果樹グループ」が発足する。リーダーはヤングシニアの有元康人さん。

当面は「実りの森」を果樹園にする仕事に取り組む。柿、栗、サクランボ、スモモ、ブルーベリー、クルミ、キウイ、ナツメなどを植える計画だ。「ならやま梅林」や各所にある果樹の管理も担当する。専門知識や技術の勉強も必要だ。

しかし何よりも肝心なものは人材だ。新しい皮袋には新しい酒が相応しい。

ヤングシニアの皆さん、果樹園グループに参加して「次の10年」に夢を育てませんか。心ある方々のご参加をお待ちしています。

年年歳歳花相似（年々歳々花相似たり）
歳歳年年人不同（歳々年々人同じからず）

私のふるさと奈良・あまがつじ

松本 武彦

<伝承の残るまち>

近鉄大和西大寺駅から橿原線の各停で約2分、最初の駅「尼ヶ辻」に着く。この駅の奈良寄り一帯が私のふるさと「尼辻」（あまがつじ）である。私はこの地で生まれ育ち、来年ここで傘寿を迎えようとしている。

地名の由来については二つの話が残っている。一つは、唐招提寺建立の地を求めて訪れた鑑真が、この地に立った時には既に失明して目視できず、足下の土をなめたところ甘かったので、「甘か土」（あまかつち）と言ったことに由来するという。真偽のほどは知らない。

今一つは尼寺の存在で、和気清麻呂が興した聖武天皇の御学問所「弘文院」に始まる尼寺が江戸幕府第4代将軍徳川家綱の時代まで当地にあり、尼さんの往来が多かったことから、そのことを意味する「尼ヶ辻」が地名になったというものである。ちなみに、この寺「興福院」は現在、奈良市法蓮町にある。

ところで、私のふるさととは、かの平城京の北西端にあって、我が家もこの域内になるらしく、自宅改築時の発掘調査では「下級貴族」（調査員の話）の邸宅跡が見つかったと聞く。幸い建築許可が出て、現在遺跡の上で住まわせてもらっている。

すぐ近くには、美しい前方後円墳で知られる第11代垂仁天皇陵や田道間守（たじまもり）の塚がある。この塚には、垂仁天皇の命を受け、不老不死の霊薬「時じくの香の木の実」（橘）を求めて渡航した田道間守が、苦節10年霊薬を携えて帰郷。しかし時既に遅く、天皇は崩御して命を果たせず、陵に木の実を捧げて号泣したという悲話が残る。今も水面にぽつんと浮かぶ丸い塚が涙の粒にも見えてくる。

唐招提寺も近くだ。朝夕には勤行の鐘の音が地をはうように心地よく伝わってくる。戦後間

もない頃には現在のような塀や門もなく、境内への立ち入りは自由で、私たち子どもを温かく受け入れてくれた。写生をしたり学校で習ったばかりの拓本を採ったりしたものだ。

自宅近くを秋篠川が流れているが、ここも子どものよい遊び場だった。川岸のススキの中に隠れ家を作ってスリルを楽しんだり、流れをせきとめては川エビやモロコ、フナ、ドンボ、ナマズといった魚を捕まえたりしていた。さらに、岸に舞う蛍をとらえてはネギの中に入れて光らせたり蚊帳の中に放ったりして楽しんだことなども懐かしい記憶だ。

傍らの、国鉄（当時）奈良駅から西に延びる三条通りでは、“ばたばた”と呼ばれていたオート三輪が砂煙を上げて走り、そのそばを牛が荷車を引いていた。こんな記憶が残る三条通りも、今は4車線の道路となって多くの車が行き交い、昔の面影はない。

ふるさととは、普段心の底で眠っているこうした記憶をたちまちリアルなものにする不思議な力がある。

<2キロメートルの桜並木>

先にも触れたが、私のふるさとにはかつての平城京に沿って秋篠川が南流している。この川は、平城京造営時には木材の運搬に使われたといわれるが、ここに桜並木が誕生した。西大寺から西の京に至る約2kmの区間である。

仲間と植樹のための組織を立ち上げ、多くの支援者と共に初めて植樹をしたのが、11年前の平成21年春のことである。以来今日まで240本の植樹を終え、私のふるさとが少し新しくなった。

まだ物足りなさも残るが、散歩道の一つに加えていただければ幸甚である。





近道をしない

岡田 安弘

米国の絵本作家で園芸家、ターシャ・テューダ(1915-2008)の生涯を描くTV映画を観た。私が里山再生活動に参加したのを知った友人が、録画を届けてくれた。「後半生をかけた広大な庭や森は、世界中のガーデナーの憧れだよ」と言う。

ならやまの仲間は、写真集を貸してくれた。たわわに実るリンゴやミカンの森と花盛りの庭の写真が美しい。これらは子と孫に引き継がれた。映画では、幼い曾孫が池のスイレンを見て「お花はどのようにして生まれてくるの?」と親に聞く。自然の営みや自然との共生を親が教える。

ターシャの世界は知れば知るほど、木曜日の活動に重なって見えた。私たちも豊かな自然を守り、次世代へ引き継ぐのを使命にしている。自然教室や昆虫と植物の図録は、自然を慈しむ心を育むに違いない。図録「ならやまの木々」の編集も始まった。

近道を探さないことをモットーにするターシャ。ならやまの合言葉「無理をせず」にも通じ腑に落ちる。1日の大半を草花の手入れと山羊の乳しぼりに費やす。晩年の過ごし方の理想と言えよう。スローライフという和製英語が生まれたのは、ターシャの生涯が話題になってのことだそう。

< 牛を飼いたい >

社交界で引っ張りだこの両親とは対照的に、孤独な少女だった。農場を持って牛を飼うのを夢見る。本格的に園芸の道へ歩んだのは50歳を過ぎている。それも意外な人の影響だった。

電話を発明したグラハム・ベルの娘と親しかった両親が、ターシャに語った話がある。ベルはポケット一杯のルピナスの種を旅の先々で蒔いた。花が広がり米国の原風景になったという。

「私も種を蒔く」。少女は心に誓う。

20歳を過ぎて、絵本作家になる。幼いころから空想の世界で遊ぶのが好きだった。絵本の主人公は、飼っている山羊、子豚、ガチョウなど。空想を絵にする。大ヒットし、思う存分に種を蒔く時が訪れる。「しかし、夫とは歩む方角が異なり別れた」と告白している。

バーモント州の町外れに移り住む。30万坪の土地は石ころだらけ。開発に最新の重機は使わない。家族の手と年月をかける。ならやまも同じだ。荒山と竹藪の16haを県から預かり、諸先輩の手が何年もかけて切り開いた。

「料理と掃除は、女のアートとして楽しむ」とも語る。ならやまの季節の食材を使って振舞われる煮物、和え物、揚げ物、漬物、汁物やサラダが目につく。

< 16歳から愛用 >

4人の子を育てた。コテージは長男の手造り。1940年代に購入した薪ストーブとベッドだけの質素な生活を始める。電気や水道などの設備は最小限に留め、主にローソク生活。1年に使う千本のローソクも手製。柳の枝に灯心を何本も結わえる。大なべに溶かした蜜ろうが固まるまで、子や孫が何回も漬けては上げる。

多くの古道具も現役。スコップは16歳からの愛用品だ。写真集で見る古ぼけた台所には、計量カップ、魚の蒸し器など古い調理具が並ぶ。「昔のものはよくできている。何十年も使っているわ」と話している。

曾孫がドライフラワーを手作りし、91歳の誕生日に手渡した。「いい香りがするだろうね。でも、もう嗅げないの」。申し訳なさそうに包みを開ける。鼻を近づけた。「やっぱり駄目だったわ」。映画は自然を愛した人のフィナーレを暗示する。

一枚の木の葉が散り、腐葉土となって母なる地球に還る。日本人的な死生観なら、人生は帰郷の旅と言えなくもない。自ら手を尽くした土に、ターシャは還った。93歳だった。

やさしい病害虫講座 36

ネギの害虫

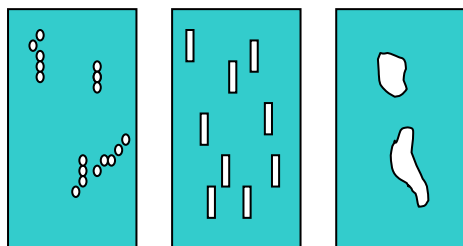
木村 裕

ネギをプランターや鉢で少しばかり栽培？している方は多いでしょう。ちょっとあれば薬味にも使えて便利ですね。この程度ならほとんど病害虫は発生しません。しかし、畑で栽培するとお約束通り、害虫や病気が発生します。

葉ネギは青いのが基本ですが、葉全体が白っぽくなることが多いです。とくに



春から夏にかけての栽培で多いですが、虫の姿は見つかりません。発生してからの防除は面倒ですので、苗を植えるとき土の中に粒状の薬剤を混ぜ込んでおくと言防効果があります（アルバリン、モスピランなど）。



アザミウマ ハモグリガ ネギコガ

【ネギアザミウマ】

この虫の被害がもっとも目立ちます。葉に小さな点のような色抜けです。葉全体にわたって無数の色抜けが生じるので遠目には葉が白く見えます。成虫でも長さが2ミリ以下で、淡褐色の細長い虫ですので皆さんのお目目では見つけることは難しいでしょう。幼虫は黄色でもっと小さいです。

【ネギハモグリバエ】

ハエの幼虫（ウジ）が葉の内側からなめるようにして食べますので、その部分は糸くずのような白い筋になります。たくさんの虫がつくと、無数の白い筋が現れ、遠目には葉全体が白く見

えます。成虫のハエは黒色で黄色の模様があって綺麗ですが、何分にも小さいので目にはつかないでしょう。

【ネギコガ】

葉に数ミリ～1センチの大きさの小斑紋状の色抜けが



現れ、丸い小さな孔があいていることもあります。葉の中にアオムシよりももっと小さな虫が住み着き、内側から葉をかじります。大きく成長した幼虫は葉から外に出て、葉の表面で網につつまれたまゆをつくります。

【ネギアブラムシ】

葉に真っ黒な小さな虫が行列し、葉から汁を吸います。短期間に急増しますので見つけしだい手ですりつぶします。ネギの他、タマネギ、ニラ、ワケギなどにも寄生します。

【シロシタヨトウ】

ときどき発生するヨトウムシです。ネギが好物で、葉身の中に入って大きな孔をあけます。



卵塊から産まれるため、最初は一部の株にのみ被害があらわれますので、その段階で虫を捕殺します。

【サビ病】

葉に赤錆がついたように点々と盛り上がったかさぶたのような物ができます。



ネギにしか発生しませんが、ひとたび発生すると防除は難しいです。あきらめてください（農協でしか薬は手に入りません）。

ならやまトーク・投句 (陽春編)

コロナ菌のたりのたりと春の街

岡田安弘

(蕪村に叱られそうだが、思わずできてしまったと。新型コロナウイルスに街は閑散、世間は不景気。のたりのたりは、ご免蒙りたいが・)

梅が香やコロナフリーの深呼吸

古川祐司

(ならやまの活動は自粛とて、梅林には人の気配は無い。新型コロナウイルスの心配も無さそう。梅の香を胸いっぱい深呼吸する)

松明に春呼ぶ祈り二月堂

藤原 勲

(創始以来1269回、不退の行として続くお水取り。天災、反乱、疫病は国家の病。南無観世音 国家安穩、世界平和、コロナ退散)

梅林や紅白の雲湧くがごと

藤原 勲

(月ヶ瀬辺りか、谷間から梅の香とともに、花の雲が湧き上がる。いつもながらの名調子、一息に詠んだリズム感がいい)

明神山奈良の都はかすみけり

阿部和生

(2月例研、明神山の展望台から望む世界遺産は、もう春めいて霞む)

平城山は寂しくあらん朝霞

阿部和生

(ならやまの活動は自粛。梅が咲き、温室は空しく種まきを待つ)

投句歓迎 (古川まで)

卒園式子守の思い出重なりて

千載輝重

(成長した孫の晴姿、思い出の情景がオーバーラップする好々爺)

雪汁の水路に溢れ唄ひけり

阿部和生

(北国の故郷は過疎の村。田圃の水路は、雪解け水が勢いよく流れている。そろそろ種粃を浸すころか。豊作の期待に胸が膨らんだものだ)

鶯の声いきいきと里の朝

鈴木末一

(実りの森、節回しもすっかり上達、のびやかな谷渡りの声が響く。「ホーホケケキヨ ケキヨケキヨケキヨ・・・」なんと十二連発)

果樹苗にあと幾年と傘寿笑

阿部和生

(実りの森、果樹苗を植えて、桃栗3年柿8年・・・ 作者は傘寿)

梅が香を独り占めする野守かな

古川祐司

(今日も、ならやまで独り作業するKさん。周りに梅が一段と薫る)

梅が香に自転車押して親子連れ

古川祐司

(自転車道沿いの梅林は満開。急がずゆっくり楽しんでいて下さい)

閑吟にうつろふ春やデカメロン

古川祐司

(高齢者は外出を控え自宅に蟄居。デカメロンに倣い閑吟また苦吟)



▲オイルパステル「イソギク」 有元 康人



▲水彩画「ユリスイセン」 前 津久美



▲クラフト「雛人形」 桜木 晴代



▲写真「カトレア」 坂東 久平



▲陶芸「猫」 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00

(前日水曜日、19時前のNHKTV天気予報にて午前中の降雨確率

60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日も中止)

場 所： 奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地

アクセス： JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩7分

携行品など： 弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)お椀、箸、コップなど

お問い合わせ： 八木



4月の活動について

4月 2日： 協働活動日(シイタケ菌打ち) ・ アダプトプログラム

4月 30日： 備品点検日

4月の各グループ活動予定

グループ	活 動 予 定
里 山	シイタケ菌打ち、仮置き・マキ割り・里山林内の整理・佐保自然の森整理 ユート：松山平にて菌根菌を植菌・松整備地区にて菌根菌を植菌
エコファーム	茄子、唐辛子、里芋の畝作り・カボチャ畑の畝作り・枝豆畑の畝作り サツマイモ畑の畝作り・里芋植え付け・枝豆播種・ラッカセイ播種 トマト、胡瓜、オクラ、西瓜、マクワ畝作り・茄子、唐辛子、カボチャ 植え付け・黒米苗代作り
景 観	整備：BC草刈り・竹林整備・BC横の真竹林整備・彩の森・BC周辺の草 刈り / 養蜂の巣箱周辺整備 ビオ池：西池調査、池整備 花： アガパンサス霜除け撤去・イチハツ植え替え・ハナショウガ剪定 日蔭植物園草取り・山野草園草取り・キショウブ園剪定・整備
パトロール	観察路全体点検・ミーティング・水路改修準備・BC自転車置き場周辺整 備・観察路整備・丸太階段、手摺ロープ、標識ペンキ補修・水路改修準備 工事・コースパトロール 2-3-4-1
果 樹	グループ活動立ち上げ・灌木整備、剪定残渣整理・キウイの棚設置 器具収納小屋の建設(基礎作り)

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

2月27日(木) 活動 晴れ 72名+2名

新型コロナウイルス感染拡大の影響が当会にも及びます。先週のシタケイベントや本日午後と次回の活動が急遽中止になったほか、これからの新入会員歓迎会等も自粛せざるを得なくなっている。また来週の植樹作業等の協働活動も本日実施された。シニア生2名。里山Gは協働活動や遊具の撤去、エコGはビニールハウスの仕上げやジャガイモの畝づくり、そして景観Gは協働活動のほか実りの森の植樹を行う。またビオ班は協働活動、花班はアジサイの移植とアヤメへの寒肥やり、そしてパトGは1コースパトロールと丸太階段整備、果樹班は果樹木の苗木の植え付けに取り組む。



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ならやままでの活動は3月5日から19日まで中止となり、26日以降についても、感染予防対策を十分に行ったうえでの活動になっています。

一日も早く通常の活動ができるようになることを心より願うばかりです。

行事案内

4月4日(土) 佐保川ワイワイ桜祭り **中止**

4月14日(火) 月例研修会 高見の郷 **中止**

5月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

7日 協働活動日・アダプトプログラム

*5月16日(土) 2019年度総会 10時~

奈良ロイヤルホテル

*天平祭 5/3-4 **不参加**

幸せでいてほしい

先日、とても珍しい鳥を見つけた。真っ白なオオバン。一羽のオオバンに近づく別のオオバンを追散らしていたところを見ると、愛するパートナーを守ろうとする雄だろう。メラニンの欠乏によって色素が抜け落ちる白化(アルビノ)は瞳孔が赤くなるが、このオオバンは黒目であり、ホワイトライオンやホワイトタイガーなどと同様に白変種と呼ばれる、珍しいが遺伝的には正常に存在する種類らしい。ホワイトオオバンと呼んでもいいかも!

仲間から見放されなければいいのにと願う。幸せでいてほしい。



パートナーを愛しそうに見つめるオオバン
(2020年3月3日菖蒲池にて)

2020 年 3 月度幹事会報告

日時： 2月25日（火）14：00～15：00

場所： 奈良市中部公民館

出席者：15名（会計監査役含む）、欠席者：9名
（議事録よりトピックスのみ）

I 会長挨拶

シタケイベントの突然中止の経緯と新型コロナウイルスについての注意喚起

II 事務局・会計報告

- (1) 会員数：174 名（2 名増）
- (2) 2020 年度会費を 3 月末までに徴収予定
- (3) 会計報告：特に問題なし

Ⅲ 活動・行事に関わる課題・懸案・確認事項

- (1) 今後の行事については新型コロナウイルスの感染状況によって柔軟に考える。
- (2) 3月19日の新人歓迎会は日程未定で延期
ただしアルコールは出さないことを確認
- (3) 緑陰広場拡張と水路変更工事について、具
体的な工事計画は継続協議しつつ、3月から
専従体制（5名程度）で取り組みを開始

IV 企画・助成金事業案件

- (1) 図録編集委員会からの報告
 - ・ 5 エリアごとの樹叢を取り上げメインとなる樹木を掲載
 - ・ 表紙デザインは公募する
- (2) 各種助成金事業進捗：特に問題なし

V 喫緊・提案事項

- (1) 新年度予算について、各 G からの要求は年度並みだが、収入減少も想定の上、今後調整する。

VI 広報関係

- ・4月号編成案の承認。

VII 報告・連絡事項

- ・活動報告と予告：会報誌参照
- ・朝日親と子の自然環境教室について、2020年度も10月11日実施で協力依頼あり
- ・会計監査役から前年度監査時に指摘された事項について後日再確認する
- ・4月度幹事会：3月31日(火)



＜こんな時こそ・・・＞



新型コロナウィルスという得体の
しれない怪物のせいで、活動の様子や
行事の予定をお知らせすることが少なく、今月
はちょっと寂しい会報誌になりました。けれど
も、その分、久しぶりに岡田さんに「字遊字感」、
木村さんに「病虫害講座」の寄稿をお願いし、
また、活動日が少ない中でも、そうそうたる俳
人による「ならやま投句」は健在で、いつもど
おりの１ページを飾っていただきました。そし
て、全員参加の「里山の今」には今月から果樹
グループが参加、「私のふるさと」シリーズ、力
作ぞろいの「Gallary ならやま」と、皆さんのお
かげで内容の豊かな４月号になりました。

今月から、フォントを変更し、字間、行間を少し広げて読みやすくしたつもりですが、いかがでしたでしょうか？

活動中止で顔を合わせることはできなくても、こんな時こそ、会報誌が少しでもその穴を埋めることができていればいいのですが。

こんなことを書いていても、この会報誌が届くころには、騒ぎも少しは治まり、みんなの笑顔がならやまに溢れているかもしれません。ぜひとも、そうなっていてほしいものです。



発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

URL : <http://www.naranature.com>

A decorative horizontal line consisting of a series of alternating white and black diamonds.

編集子一ム：青木（幸）、青木（芳）、千載、

田代、田中（善）、戸田、山崎

編集代表 Mail: editor@naranature.com

＜表紙写真＞咲き誇る川井桜（3月26日）

初代会長 故川井秀夫さん（2017 年秋ご逝去）から寄贈された桜。コロナに負けるな、と応援するがごとくに咲き誇っている。